

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



# ぱらネット

第49号

## 市民にむけて

## 開かれた教室



令和7年度のさいたま市障害者社会参加推進事業は生活訓練7、家族教室7、相談事業1の計15事業実施しました。

当事者・家族だけではなく、市民にも開かれた学びの場となりました。



## 令和7年度さいたま市障害者社会参加推進事業 生活訓練 7 / 家族教室 7 / 相談事業

## 【生活訓練】

| 開催団体 / 事業の種類                   | テーマ等  | 開催日 / 場所  | 参加者               |
|--------------------------------|---|---|-------------------|
| 1 一般社団法人インクルラボ                 | iPhone教室（視覚障害者向け）<br>講師：docomoスタッフ<br>視覚障害者視能訓練センター3名   | 令和7年6月8日(日)、7月13日(日)<br>8月2日(土)、9月6日(土) (全4日)<br>10:30～12:00、13:00～14:30<br>さいたま市市民活動サポートセンター<br>ほか | 34                |
| 2 さいたま市聴覚障害者協会                 | 手話教室（入門）<br>難聴者・中途失聴者・家族のための手話教室<br>講師：さいたま市聴覚障害者協会   | 令和7年7月12日(土)<br>～令和7年10月25日(土)<br>全土曜全10回13:00～15:00<br>浦和コミュニティセンター第14集会室                          | 14                |
| 3 一般社団法人インクルラボ                 | 第5回さいたま市目の病気の予防とリハビリ<br>講師：江口 万祐子医師<br>武蔵浦和眼科クリニック院長<br>第1部 予防：目の加齢を理解しよう！<br>第2部 リハビリ：見えなくなってもロービジョンケアがある！                   | 令和7年8月23日(土)<br>14:00～16:00<br>浦和コミュニティセンター<br>第15集会室   | 会場 138<br>zoom 41 |
| 4 さいたま市<br>精神障害当事者会ウィーズ        | ～共に作ろうみんなの輪 part18～<br>「よりよい人間関係をつくるために～Part8～」<br>講師：相川 章子氏（埼玉県立大学教授）  | 令和7年10月19日(日)<br>13:30～15:30<br>浦和ふれあい館<br>第1会議室  | 40                |
| 5 さいたま市<br>視覚障害者福祉協会           | ～視覚障害者の安全な歩行を考える～<br>スマートフォンのアプリで安全に歩ける方法とは？<br>講師：株式会社 あしらせ  | 令和7年10月25日(土)<br>13:00～15:30<br>大宮ふれあい福祉センター<br>301～303会議室  | 30                |
| 6 さいたま市聴覚障害者協会                 | 手話教室（初級）<br>難聴者・中途失聴者・家族のための手話教室<br>講師：さいたま市聴覚障害者協会   | 令和7年11月1日(土)<br>～令和8年1月24日(土)<br>全土曜全10回13:00～15:00<br>浦和コミュニティセンター第14集会室                           | 11                |
| 7 公益社団法人<br>日本オストミー協会<br>埼玉県支部 | 「オストメイトが少しでも快適な生活が送れるように」<br>医師や療育指導士からアドバイスを受ける<br>また、糖尿病療育指導士から糖尿病関連の情報を得る<br>講師：十束 英志（大袋医院 医院長）<br>飯高 奈津子（流山中央病院 糖尿病療育指導士） | 令和8年2月7日(土)<br>13:00～16:30<br>浦和コミュニティセンター<br>第13集会室  | 50                |

## 【家族教室】

|                           |   |  |                  |
|---------------------------|---|--|------------------|
| 1 さいたま市聴覚障害者協会            | 知られざる真実!!<br>「ろうあ者の戦前・戦中・戦後語られなかった真実」と『隠されたろうあ戦争体験』<br>講師：牧山 定義氏（上州ろうあ魂語り部）   | 令和7年9月13日(土)<br>14:00～16:00<br>浦和コミュニティセンター<br>第15集会室      | 78               |
| 2 一般社団法人みっくすビート           | 「障害者のための乳がん教室」<br>講師：熊谷 葉子氏<br>（乳がん体験者コーディネーター・キャリアコンサルタント）   | 令和7年9月21日(日)<br>13:00～15:00<br>大宮ふれあい福祉センター<br>301～303会議室  | 55               |
| 3 さいたま市<br>精神障害者家族連絡会     | 「精神科医療の現状とこれから」<br>～国民の20人に1人が精神科受診～<br>講師：氏家 憲章氏（日本医労連・精神病院部会元部会長）   | 令和7年10月19日(日)<br>13:00～16:00<br>与野本町コミュニティセンター<br>多目的ルーム 大 | 49               |
| 4 一般社団法人さいたま市<br>手をつなぐ育成会 | どうなる？ どうする？ 成年後見制度<br>講師：又村 あおい氏<br>（一社）全国手をつなぐ育成会常務理事兼事務局長<br>（公社）発達障害連盟常務理事（発達障害白書・JLニュース編集長）<br>障害者差別の解消に向けた事例の収集・分析に係る調査研究検討委員<br>厚生労働省障害児通所支援の在り方に関する検討会委員 | 令和7年11月19日(水)<br>10:00～12:30<br>浦和コミュニティセンター<br>第15集会室     | 82               |
| 5 高次脳機能障害さいたま<br>これからの道   | 高次脳機能障害者の社会参加のきっかけと学業や就労を継続するための地域支援とは？<br>講師：會田 玉美氏<br>目白大学大学院リハビリテーション学研究科長 教授  | 令和7年11月30日(日)<br>13:00～15:30<br>浦和コミュニティセンター<br>第13集会室     | 会場 37<br>zoom 10 |
| 6 NPO法人さいたま市<br>障害難病団体協議会 | 「ふれあいコンサート」<br>～障害がある人もない人も音楽を通してふれあいを～<br>特別ゲスト演奏：フルートアンサンブル ウィズ<br>地域活動支援センターかものみや・埼玉福祉事業協会・音楽療法和の会   | 令和8年2月11日(水・祝)<br>13:20～15:00<br>プラザノース2階 多目的ルーム           | 90               |
| 7 さいたま市<br>精神障害者家族連絡会     | 「精神障がい者が自分らしく地域で暮らすために」<br>講師：国分寺すずかけ心療クリニック 石田貴紀氏、他1名<br>岡本和子氏<br>（リカバリー支援部長、精神保健福祉士、臨床心理士）  | 令和8年2月15日(日)<br>13:00～16:00<br>浦和コミュニティセンター<br>第15集会室      | 57               |

## 【相談事業】

|                                  |  |   |                           |
|----------------------------------|--|---|---------------------------|
| さいたま市障害者協議会<br>（さいたま市社会参加推進センター） | わかりあわないままともにいる<br>～多様な人がともに暮らすとは～<br>講師：久保田 翠氏<br>（認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長、<br>障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ施設長） | 令和8年2月14日(土)<br>13:00～15:00<br>浦和コミュニティセンター<br>第15集会室 | 会場 30<br>YouTube<br>配信 19 |
|----------------------------------|--|---|---------------------------|

【生活訓練事業】

一般社団法人インクルラボ

「目の病気の予防とリハビリ」

令和七年八月二十三日(土)浦和コミュニティセンターにて、さいたま市障害者社会参加推進事業「目の病気の予防とリハビリ」講演会を開催しました。

はじめに、さいたま市役所福祉局障害福祉課 助川裕太郎主事、さいたま市障害者協議会 中野勇会長から主催者挨拶があり、続いて武蔵浦和眼科クリニック院長・江口万祐子先生による講演が行われました。

第一部では、加齢による目の変化や視覚障害を引き起こす疾患について、画像を交えて分かりやすく解説いただきました。白内障、眼瞼下垂、ドライアイなど身近な症状に、多くの参加者が深くうなずきながら耳を傾けていました。

第二部では、視覚障害になっても安心して暮らせるよう、ロービジョンケアや福祉用具、支援制度について紹介されました。また、埼玉県ヘルプマーク普及大使の古川信行さん、石川美紀さんによる啓発活動のほか、中途視覚障害当事者として、チャレンジドヨガ講師の石川美紀さん、全盲のアスリートで会社員の高橋俊彦さんから体験談が語られました。日常生活の工夫や支援との出会いなど、当事者だからこそ伝えられるリアルな声に、会場全体が静かに耳を傾けていました。

「目から得る情報は八十%以上」と言われるように、視覚は生活に欠かせない大切な感覚です。今回の講演会は、目の病気は誰にでも起こり得ること、そして早期発見・早期治療の大切さを改めて実感する貴重な機会となりました。

当日は、さいたま市内在住・在勤・在学の方や、福祉・医療関係者など、オンラインを含め約百七十名が参加しました。最後に、主催者である一般社団法人インクルラボ 福迫かずやより、「病気になっても人生を諦めず、社会と関わって生きていくことの大切さ」が語られ、会場には真剣なまなざしと温かな拍手があふれていました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

一般社団法人インクルラボ

鳥山ひろこ

「iPhone教室を終えて」

六月から九月にかけて、都内から講師をお招きし、iPhone教室を開催しました。毎回午前と午後の二部制で、市民活動サポーターセンターや浦和コミュニティセンターを会場に、計八回行いました。

参加者はサポーターボランティアを含め三十四名。視覚障害のある方、盲ろう者、ロービジョンの方、そして晴眼者と、さまざまな立場の方が集まりました。レッスンはマンツーマンで進められ、一人ひとりのペースに合わせた学びができたことが、とても印象的でした。また、講師も当事者であり、それぞ

れの経験を生かしながら教えてくださったことが大きな力になりました。

各テーブルに二名のサポーターボランティアが付き、安心して学べる環境を整えられていたのも心強かったです。「できなかったことができるようになった」「スマホを通して世界が広がった」——そんな受講者の声が聞こえてきたことは、今回の教室の成果だと思えます。いつか、この中から新たな講師を目指す方が出てきてくれることを楽しみにしています。

一般社団法人インクルラボ 福迫かずや

【生活訓練事業】

さいたま市視覚障害者

福祉協会



「視覚障害者の安全な歩行を考える」

歩行を考える

今年の生活訓練では、視覚障害者向けスマートフォンアプリがどんどん開発されている中、それらを便利に使えるようになるために、その一つから視覚障害者の歩行誘導ナビゲーションアプリに注目し、その開発メーカーから現状を学びました。

今回のアプリは、コンパクトな機器を靴につけ、アプリの操作により、脚からの伝わる振動が目的の地まで案内をするというもので、スマホからは、音声で周囲の状況を説明してくれるものでした。

視覚障害者の単独歩行では、まっすぐ歩くことが難しく方向を見失ってしまうことなどがよくあります。

今回の支援システムは、靴からの振動に慣れると、単独歩行の大きなサポートとなるものと感じました。

そしてこの支援を受けるために欠かせないスマートフォンも益々生活の一部となっていくと思えます。

視覚障害者にとってフラットな表面のスマートフォンは、なかなか使いこなせなく苦労するところですが、電話やメールばかりでなく色々なアプリを知ることによってスマートフォンが更に身近になっていくと感じました。

さいたま市視覚障害者福祉協会

藤崎明美

【家族教室事業】

さいたま市聴覚障害者協会

知られざる真実! 『ろうあ者の戦前・戦中・戦後語られなかった真実』と『隠されたろうあ戦争体験』  
「手話舞くらぶ」&「ろうあ魂の歌」

今回は、ちょうど戦後八十年で、「ろうあ者の戦争体験」等の講演会を開催しました。講師の両親、祖父、その仲間から聞いた話だそうです。

講師はデフファミリーであり、手話中心での生い立ちの背景があります。その誇りが講師の原点であり、力であり、魂だと話されました。

戦中時は、聞こえない方々は自分なりの工夫で何とか生きていたとか、あの頃の時代は、文字も手話もままならない中で必死に学んだとのことだとか、でもそういう方は、ごくわずかではないかなと私は思いました。講師のお母さまの話では、聞こえないため親戚からの悪口や差別に耐えかね、転々と身を寄せたことがあったこと、「戦争は、人を変えてしまうものだ」と講師によく語ったという話もありました。戦争の苦しみや悲劇を繰り返さないことが何よりも大切であることは、世界中の人々も同じ気持ちですね。平和な世界であるようにと祈るばかりです。実は、個人の話ですが、残酷な戦争の話かなと思ったので、この講演テーマとちよっとかけ離れていた内容

だったのではと思ってしまいました。手話舞くらぶのメンバーと参加者と一緒に簡単な手話を使って歌って、盛り上がりました。聞こえない人は歌を歌うこと自体が苦手というか嫌いな人が多いです。勿論聞こえなくても歌が好きなの人もいますし、カラオケに行く若い人も少なくはないと思います。有意義な時間でした。

さいたま市聴覚障害者協会  
横島 美智子



【生活訓練事業】

「手話教室（入門・初級）」

昨年度と同様、今年度の手話教室も「入門編」と「初級編」に分けて開催をしました。

十一月スタートの「初級編」は全十回を先日終えました。参加申込者は十一名で、欠席の続いた方を除く十名の方が最後まで学ばれ、修了証を渡すことができました。参加者のほとんどは、入門編から引き続き学ばれていました。

【家族教室事業】

一般社団法人みつくすビート

学習会は、入門編と比べ少しレベルアップした内容であり、手話動画の読取りもありました。一生懸命に手話を覚えようとする姿があり、仲間たちと楽しそうに会話しながら学ばれていました。教材は、テキストではなく作成した資料を配付して進めました。手話を習得するには十回という回数はまだ少なく、なかなか難しいです。そこで、閉講式の時に更なる学習の場として、「埼玉県難聴者・中途失聴者手話講習会」について触れさせていただきました。今後、さいたま市でも同様に、難聴者・中途失聴者・家族のための手話講習会の開催を望みます。当事者・家族にとって、学ぶ場、機会が充実して欲しいと切に願っています。

さいたま市聴覚障害者協会  
青山 淑子

【障害者のための乳がん教室】

九月二十一日(日曜日)に、ふれあい福祉センターの三階で、みつくすビートの講演会が開催されました。障害者のための乳がん教室、と題して講師の熊谷葉子氏から乳がんについての知識を聴きました。今の時代は二人に一人が、がん治療を体験します。あなたや大切な人が乳がんになっても大丈夫? 正しく知って自分らしく生きていく、というコンセプトで企画された講演会

でしたが、参加人数は五十名と大変好評なうちに終えることができました。熊谷氏がジャカルタに住んでいたことや、日本と行き来して治療をしたことなど、がん治療は過酷なものだし、お金もかかることなど身につまされる話ばかりでした。その中でも印象に残ったのが、がんを仕事先に言うべきかどうかの話です。熊谷氏は基本的に病名を告げるのは本人の自由意志に基づくものだと、はっきり言いました。しかし、何らかの配慮を願うなら病名を告げることは必要だとのこと。まったくそのとおりだと私は思いました。質疑応答は女性のみで行われ、とても有意義なやり取りができました。

みつくすビートでは、この講演会の成功をもとにして今後とも知識を深められる機会を作り出していきたくらいだと思います。

一般社団法人みつくすビート  
神田 正子



【生活訓練事業】

さいたま市精神障害当事者会  
ウィーズ

「ウィーズ生活訓練事業が  
行われました」

去る二〇二五年十月十九日(日)埼玉県立大学の相川章子先生をお迎えし、「よりよい人間関係をつくるために」PART八」をテーマに生活訓練が行われました。ウィーズのホームグラウンドの浦和ふれあい館で行われました。四十名の参加でした。

今回、マイクの機材トラブルがあったり、先生との擦り合わせが不十分なところもありましたが、とりあえずは、滞りなく行われました。今回私も「リカバリーストーリーを語ろう」ということで十分弱のお話をさせていただきました。

先生のお話では、グループワークを交え、「促しの技法」、「繰り返し技法」など相手が話しやすいように聞く練習もしました。今回は運悪く(?)さいたま市精神家族会連絡会さんと開催日が重なってしまったり、また当日参加者でも、体調不良で席を離れる方もいて少し寂しい感じでした。今後の課題として「よりよい人間関係をつくるために」も八回行われ、マンネリだという意見もあるので、来年は少し趣向を変え、「リカバリーストーリーを語ろう」を増枠するなど先生とも相談しながらやっていけるといいと思います。私事ながら今回は他の仕事をしながらの準備で大変でしたが、来年はもう少し段取り良くできるといいと思います。



何はともあれ、今回お手伝いいただいた方、ご参加いただいた皆様どうもありがとうございました。皆様の人間関係がよりよくなることを願っております。

さいたま市精神障害当事者会ウィーズ  
稲葉晃

【家族教室事業】

さいたま市精神障害者  
家族会連絡会

精神科医療の現状とこれから

十月十九日(日)氏家憲章氏の講演会がさいたま市精神障害者家族会連絡会主催(市障協・行政の共催)で行われました。氏家氏は、我が国の精神医療が時代遅れであり内容に乏しい医療体制である事に疑問を持ち、数十年にわたる精神医療の内側から関わり、改善すべく打開策を追い続けて来られた方です。講演の中で、我が国の当事者・家族の置かれている状況は課題が多く、その大本は精神医療政策の遅れが招いた結果であると話されました。

我が家も例外ではなく、人権がある様でない精神科への入退院の繰り返し、大量の薬を持たされフォローがほとんどなく後は自己責任と放置状態で時間だけが過ぎさって行った日々等々、正に息子たちは時代の犠牲者なのです。

しかし時代と共に薬の開発、病床数の減少(入院日数二〜三か月が主流に)、地域ケアの必要性等々が当たり前になりつつある昨今、今こそ精神医療政策の転換をする機を迎えていると氏家氏は言います。他国に比べ遅れ遅れになっていく精神医療政策、一日でも早く大勢の当事者たちの人生を蔑ろにしない、当事者の為の政策を進めてほしいと願わずには居られません。

氏家氏は講演の最後に、そのことを皆が十分理解し、皆の総意として発信していくことが大事であると結ばれました。国民の四人に一人が一生に一度精神疾患を患うと言われる時代、他人事でない時代を迎えています。政策転換の為に世論の理解が必須です。私たち一人ひとりが、しっかりと現状(これまでの精神医療政策とこれから)を把握して、その課題を発信していく時期に来ている事に改めて気付きと勇気をもらえた様に思います。とても力強いお話でした。

さいたま市精神障害者  
もくせい家族会  
小山美枝子

講演会「精神障がい者が自分らしく地域で暮らすために」

令和八年二月十五日、「精神家族教室」が浦和コメセンにて行われました。参加は、市内の精神障害者家族会会員四十四名、一般十三名、合計五十七名でした。

講師は、国分寺すずかけ心療クリニックの岡本和子氏(リカバリー支援部長)と、デイケア通所メンバーの男女二名でした。まず、メンバーの男性のお話でした。

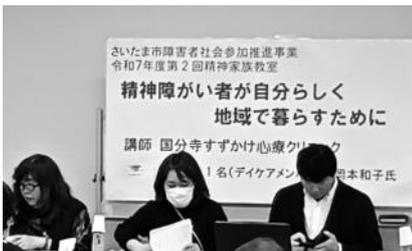
中三の頃の心の病の発症、介護施設への就職・再発、劣悪な精神科病院と温かい仲間たちとの出会い、現在のすずかけ心療クリニックでの活動についてなどでした。

次に、デイケア通所六年の女性のお話でした。うつ病について(自己否定と傷つき)、回復への道のり(私の居場所)などでした。辛かった思いをスタッフに受け止めてもらえたこと、認知の歪みを知ったことが良かったそうです。

最後は岡本氏でした。「聞き手の姿勢の大切さ。どうせ伝わらないとあきらめている人の声に耳を澄ませ、丁寧に聞くこと。精神障害は私たちの隣人であり、心の一部である。信じ続けること。」デイケアは、好きなこと、元気になること、就労に関することなどをプログラムに沿って行う。無条件に存在を保証する。自分を見捨てないでいてくれる場所。

晩御飯ありのナイトプログラム(十六〜二十時)も週に一日実施しているとのこと。とても魅力的なクリニックだと思いました。

精神障害者家族会連絡会 浜砂会  
金木愛子



【家族教室事業】

高次脳機能障害さいたま  
これからの道

「高次脳機能障害者の社会参加の  
きっかけと、継続するための地域  
支援は？」

高次脳機能障害当事者や家族にとつてのハードルの一つが、社会参加の再開で、そのきっかけを作ることが大切です。きっかけを作るために当事者は、やりたいこと、できること、できないことなどを確認し、復学や復職、就労前の目標設定をします。また、復学・復職をしてからも新たなハードルがいくつも現れるので、それら乗り越えるきっかけ作りから目標設定は続いていきます。

今回は、私も「就労している当事者」として登壇させていただきました、一緒に登壇された方も同じような経験をしていて、いくつものハードルを乗り越えて続けています。

目白大学教授の會田玉美先生は、そんな私たちから、「社会参加を継続するための地域支援」のヒントを引き出してくださりました。会場の六グループとオンラインの二グループ、目白大学、埼玉県作業療法士会などのファシリテーターら活発なグループワークもあり、茂木有希子先生の総評まで、高次脳機能障害当事者、家族、支援者らも「社会参加のきっかけ」と「継続するための地域支援」を認識することができ、高次脳機能障害者支援法の基本



理念でもある高次脳機能障害当事者の社会参加の推進に確信を持ってました。高次脳機能障害は出来なくなることは多い障害ですが、出来ることは残っています。「脳の可塑性」と言いますが、残された脳の機能や構造が変化していくので、出来ることは増え続けていくことが、今回の家族教室で共有できたと思います。

今回も、オンライン参加者も想定したハイブリッド開催を行いました。会場を埋め尽くす盛大なものとなり、参加されたみなさま、どうもありがとうございました。

高次脳機能障害さいたま  
これからの道代表 大鳥浩二

【家族教室事業】

NPO法人さいたま市  
障害難病団体協議会

「ふれあいコンサート」  
「障害がある人もない人も  
音楽を通してふれあいを」  
みんなでつくる「紡ぎ歌」

障害のある人もない人も、音楽を通じてのふれあいを、をコンセプトに「ふれあいコンサート」を開催しました。

二〇二六年二月十一日、さいたま市プラザノース多目的ルームは、八十名のお客様の来場です。

地域活動支援センター（かものみや健康コーラス）は、トーンチャイム等打楽器を演奏しながら、童謡を発表し、また日本歌曲「花」の二重奏で、一年間の練習の成果を、充分発揮されました。

音楽療法（和の会）は、心身障害児が、音楽を通じて健常者とのふれあいを、目的としています。ピアノ連弾「アイネクライネナハトムジーク」に、観客も参加者も、モーツァルトの名曲に、心開かれた時間を共有しました。

三十名の大所帯で参加の（埼玉福祉事業協会）の歌とダンス「紅蓮華」のダンス披露は、極寒の冬を蹴散らすパワーを、惜しげなく振りまきます。ラスト、すべてのダンサーが中央に集結しつくる山のタワーに、客席は、われんばかりの拍手です。

ゲスト演奏（フルートアンサンブル



（ウィズ）は、クラシック、童謡、アニメソングと幅広いレパートリー曲を、親しみやすい曲調で、会場を楽しませてくれました。

最後の全体合唱は、（ウィズさん）のフルート伴奏で、「花は咲く」「ふるさと」の二曲です。「建国記念日」に参加者、客席が一丸となった「紡ぎ歌」が、プラザノースに響き合った瞬間でした。

NPO法人さいたま市  
障害難病団体協議会  
中野昭江

**【家族教室事業】**  
**一般社団法人さいたま市**  
**手をつなぐ育成会**

『どうなる？どうする？』

**成年後見制度について」と題して**

**「家族教室」を開催しました**

令和七年度の「家族教室」『どうなる？どうする？成年後見制度について』を十一月十九日に浦和コミセンにて催しました。

当会の全国団体の常任理事で事務局長を務めている又村氏を講師にお迎えして障害のある人の立場を基にお話しいただきました。

講演は、成年後見制度の概要から話が始まり障害のある人の成年後見制度を必要としている支援と費用の目安を解説されました。それを基に当会の全国組織（全育連）で行ったアンケート結果から、課題として成年後見制度を知らないのでは無く障害のある人の生活の中で使い難い制度になっていることと後見人へ報酬を支払い続けられるか？と心配になることが回答から導き出されました。

これらの課題は、今回の法改正へ動いた一つの要素になるとの見解を語られていました。国連の障害者権利条約に関する総括所見において厳しい指摘を受けていることも含まれるとの見解でした。

講師の推定では、二〇二七年四月までに法改正がされ、二〇二九年四月には試行されるのではないかと話されてきました。

規制を掛けるのでは無く必要な項目毎に後見人を立てることが出来ること。必要が無くなった時点で成年後見人の終了が出来る様になることが大きな変革になるとの見解でした。並びに障害のある人の意向を重視して成年後見制度が実施されるとの見通しが出来る、これは今と違った捉え方だとの見解です。

これから推測される利用方法は、スポット利用で必要な時だけ成年後見制度を利用して支援していただくだけ、課題が無くなった時点で成年後見制度を終了出来ることになるだろうとの見解でした。

中でも障害のある人の金銭管理については、現時点でも課題があり支援が必要になっていきます。お話の随所で安心サポートや成年後見支援信託・預金や法人後見等の紹介がありました。参考になったことと思います。

最後に、障害のある人への地域連携ネットワーク構築の重要性を話されてきました。資料の提供を頂き個々の状態に合わせて検討していただきたいとの話でした。講演会場には、準備時間に参加者の参加があり関心の高さを感じました。講演へのアンケートには話が分かり易く聞けた、参考になったなど好意的な意見が見られました。参加者は八十二名でした。アンケートの中に市広報誌・チラシを見て参加との意見が多く、紙媒体の影響を感じました。

今回の成年後見制度については、障害のある人を中心に据えて開催しましたが高齢者の方の参加が多く見られました。今後の開催で講演題を障害のある人へ向けての講演であることを分かり易く記載

して周知したいと思われました。それでも今回の課題は高齢者と障害のある人に共通する課題が存在します。参加者には今後の見通しが持てたことと思えます。次年度も皆さんに興味を持ち参加頂ける「家族教室」を開催したいと思っています。ご参加頂きありがとうございます。

さいたま市手をつなぐ育成会  
 黒澤篤子

**【生活訓練事業】**

**公益社団法人**  
**日本オストミー協会埼玉支部**

**「オストメイトが少しでも快適な生活が過ごせるように」**

令和八年二月七日浦和コミュニティセンター十三集会室に於いて、さいたま市障害者参加推進事業での生活訓練の一環として、オストメイトが少しでも快適な生活が送れるように医師や看護師からアドバイスを受ける。をテーマとした医療講習会を開催し、五十名の参加者を得た。

第一部は糖尿病療育指導士の飯高氏から、糖尿病は血糖値を正常に保つ役割を担っているインスリンが十分に分泌されず、効果的に働かないために、血液中のブドウ糖（血糖）が増加し発症に到る病気であるとの基本的な説明があった。オストメイトが罹患するとストーマの回りのただれ等の皮膚障害が起ることもあり、小さな傷の様子を見ることと同様に、面板に細心の注意をしていかななくてはと思った。長期間血

糖値が高い状態が続くと、重篤な合併症を引き起こす可能性がある。生活習慣（食事・運動）の改善、遺伝的体質を知ること、多くの情報を自分にあてはめないこと、が必要であると認識した。

第二部は「がん治療の現状」をテーマに十束先生による講演。がんの転移と再発についてその違いを改めて知ることができた。転移とは、血行性転移（主に動脈に入り込み血流の流れに乗って進行する反対側の肺、骨、脳。肝臓、副腎等の臓器へ運ばれて増殖する転移形態）、リンパ節転移（リンパ管に侵入して後、リンパの流れに乗って次のリンパ節に転移）。再発とは、手術や抗がん剤等の治療で一次消えた（見えなくなった）細胞が現れる（遠隔転移）のこと。一般的に術後五年以内の再発が多く、その場合治療は薬物を中心に。局所再発には手術や放射線治療で対処。術後年数に係らず自分の健康状態を常に注視していく必要性を強く感じた。糖尿病もがんもまずは自分の体は自分で守る、その為には適正な生活習慣を維持することが大切であると感じた講演だった。

公益財団法人  
 日本オストミー協会埼玉支部  
 清水順子



さいたま市社会参加推進センター 相談事業

わかりあわないままとにいる

～多様な人がともに暮らすとは～



久保田翠氏

れて叩くこと。久保田翠氏は言います。「養護学校にいつても獲得できるものはなかった」社会のルールにすみませんと言いつけることに疑問を持ったそうです。「たけし」さんの行動を問題行動として捉えるのではなく立派な表現として考えたそうです。そんな「たけし」さんの存在から活動ははじまりました。認定NPO法人クリイティブサポートレッツというアートNPOとして居場所作りや文化発信、果ては街作りまで担っています。

令和七年度のさいたま市社会参加推進センター相談事業が二月十四日に浦和コミュニティセンターの第十五集会所で開催されました。講師は静岡県浜松市から久保田翠氏を招きました。

「わかりあわないままとにいる」

～多様な人がともに暮らすとは～と題して、ときに熱くときにユーモアを交えてお話をしてくれました。久保田翠氏には「たけし」という息子がいます。さまざまな障害や病気を持っています。「たけし」さん。最重度の知的障害者と呼ばれることもあります。言葉も排泄も食事さえひとりではままならないそうです。好きなことは入れ物に石を入

です。根底には福祉事業をやりながら文化を作っていくという気骨があります。

表現未満として考える当事者たちの豊かな行動を肯定しながら、更なる展開に向けて準備中とのことでした。それに関わるヘルパーさんも資格に囚われず、ストリートミュージシャンやカメラマンなどが在籍しています。障害者とアーティストは相性がいいそうです。意外な発見でした。

最後に久保田翠氏は言いました。家族の人権を蔑ろにしないでくれ、と。きつと久保田翠氏の挑戦ははじまったばかりなのだ、講演会を聴き終え胸が熱くなりました。

竹内政治



編集後記

娘を施設に送っていく朝、車の中でいつも小田和正さんの曲を聴いています。娘は身体的にも最重度で言葉を話すことも出来ませんが、沢山の曲を覚えていきます。イントロドン！が出るくらいの速さで「私、知ってるもん！」と得意げな表情になるのが可愛くて、思わず笑ってしまいます。

「どんな時も一人ではなかった」小田さんの歌詞のように、仲間と繋がることで得られる心強さ、安らぎ、癒し。家族教室、生活訓練、相談事業には、病気や障害で人生の軌道修正を余儀なくされても、諦めることなく社会の中で生きていく大切さ、ヒント、メッセージが込められています。熱量がギュッと詰まったぶらネットになりました。

今年度の広報誌づくりにご協力頂いた皆様、原稿をお寄せくださった皆様、本当にありがとうございます。(泉)

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801  
さいたま市大宮区土手町

大宮ふれあい福祉センター4F  
TEL 〇四八・六五三・七二七一  
FAX 〇四八・六五三・七三四一  
https://www.saitama-planet.com/  
e-mail saitamacity-handynet@b203.plala.or.jp

発行・編集人 中野 勇